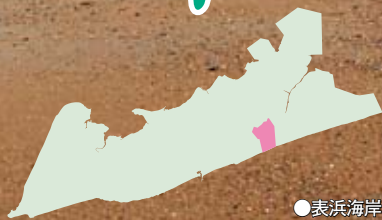


大草



●表浜海岸

基礎データ

- 【人口】1,329人(H21.8.31現在)
- 【世帯】361世帯(H21.8.31現在)
- 【面積】約347ha
- 【公共施設】大草保育園・大草小学校
- 【史跡】惣作古窯跡群・一色七郎墓跡・御園遺跡
- 【主な産業】農業

校区の概要

大草校区は、市南東部の太平洋側に位置し、田園地帯の広がる自然豊かな、古くからの農漁村地帯で、二つの地区で構成されています。大草地区は、大草東・大草西・半身・大草志田の4集落があり、主に専業農家が多い地区です。一方の大草団地地区は、昭和40年代に造成された住宅団地です。保育園と小学校が1つずつあり、地域全体の結びつきが深く、校区民全体での活動を盛んに行っています。国道42号沿いの農地では、夏はメロン、冬はキャベツを中心として、電照菊・トマト・セロリ・ブロッコリーなどの野菜を作っています。

●キャベツ畑



表浜海岸では、地引き網でイワシ、サバなどの漁獲を楽しむことが出来ます。また、太平洋の波を求めるサーファーが、年間を通してこの地を訪れています。

半身神明社のお神楽

古くから神明社秋の大祭(10月11日)で「お神楽」が奉納され、地域の安全と豊作が祈願されてきまし

た。一時、青年会員の減少により、奉納が中止されましたが、伝統芸能が廃れることを危惧した青年会のOBや有志により、本年から「お神楽」が復活しました。



●地域で愛されるお神楽

ながらみづか 半身塚

半身地区には半身塚といわれる塚があります。一説では、疫病がはやったとき、それを仏に祈ってくれた法印様を葬った法印塚であるといわれています。また、塚の周辺は半身塚遊園地として指定されており、国道42号から大草海岸に至る道路の両脇には桜が植えられ、昭和40年ごろには、満開の桜が一面に咲き誇りました。現在は、数本残っているのみですが、都会からのサーファーたちを静かに見守っています。

大草の歴史をひもとく

大草には、弥生時代の「御園遺跡」があり、遠い昔から人々の生活の場であった事を伺い知ることができます。こうした古くからの人々

の営みは、平安時代後期の「惣作古窯」に、とても興味深い形で残されています。

やもめなど ながもふ恵
こつびには そっとあわせよ
さ、で うるふやも

これは、惣作古窯から出土した碗に刻まれた「ざれ歌(ユーモラスな和歌)」で、男女の赤裸々な情愛が歌われているものです。全国でも珍しく、貴重な文化財です。



●惣作古窯跡の句碑

また、大草の歴史で忘れてならないのが、室町時代に渥美郡の領主だった「一色七郎」です。一色七郎は、応仁の乱(1467年)に出陣した後、大草で隠居。死後、田原城主・戸田宗光により、菩提のため「宝幢寺」が邸宅跡に建てられました。現在は廃寺していますが、地元有志による「大草の歴史と文化を学ぶ会」が中心となり、寺跡の整備を行うなど、郷土の歴史を語り継ぐ取り組みを行っています。



●一色七郎邸跡